



日本SPF豚協会だより

2023. 1
No.90

提 言

日本の養豚はどこに向かう

株式会社シムコ 代表取締役

小南博義



新年明けましておめでとうございます。

協会会報90号ということで、長い歴史を感じております。

昨年はロシアのウクライナ侵攻に始まり、いまだ終わりの見えない状況が続いています。

世界的な経済に影響を及ぼし35年ぶりの円安となりました。消費者物価指数は上昇し日常生活にも大きな影響がでています。

畜産業界においても、過去例を見ないほど長期間飼料価格が高騰し、まったく先の見えない状況となっています。ほかにも資材価格高騰、光熱費高騰と高騰、高騰です。このままで果たして日本の養豚はどこに向かうのでしょうか。

年々、生産者戸数は減少、繁殖豚頭数も減少、1戸当たりの飼養頭数は増加、いわゆる大規模化しているわけですが、尚のことあらゆるコストが増加する結果となっています。

飼養衛生基準を遵守するだけでも設備投資が必要で無限に資金が必要なわけですが、投資しても投資しても、生産物の価格がコストと連動しない限り再設備投資はもとより、魅力ある仕事には程遠く、国内養豚(国内畜産)は衰退するばかりだと思います。

養豚業が魅力ある仕事とならない限り将来は明るくないと思うのですが、さて魅力とは何か?仕事に対する誇りでしょうか、いやそれも大事なことです、やはり儲けなのではないでしょうか。お金の話で恐縮ですが、綺麗ごとを言っても始まりません。仕事は金儲けなのではないでしょうか。価値観の違いもあるので一概に言えないのですが、税金を納付して、豪邸に住んで、高級車に乗って、美味しいものを食べて、時には旅行に行つてなど、魅力あるということになりませんか?

3Kの代表みたいなことを言われ続け何十年経過しても少しも良

くならない業界です。喜びもありますが苦しみも多い、国は協力してくれているふりをしているだけに過ぎないし踏み込んだ施策を打っていない、これでは日本の養豚はどこに行くのか、現状維持もできません。そろそろ入口の施策より出口の施策にシフトしてほしいと切に願っています。

出口の施策とは例えば、と畜経費の減額や全額負担、枝肉価格への上乗せなどで、生産されたもの、有形に対して補助することが効果的と考えます。また豚熱ワクチンの無償化で蔓延を抑制できる可能性もあります。効果的な施策は、大きな話をするので食糧安保に繋がります。そこまででなくても、生産者が生き残ることになりませんか? 後継者が増えませんか?

生産コストが押し上げられる中、魅力ある養豚とならないのが現状です。今後はアニマルウェルフェア(AW)というコストアップ要因も控えています。消費者がAWを正確に理解し、増加するコストを販売価格に転嫁できるよう準備が必要です。中途半端なAW推進だけは避けなければなりません。我々としては、消費者に十分な理解を得られるよう一層の努力が必要です。

今後の協会の在り方については、議論があるところですが、SPF豚普及の役割はほぼ果たしたとしても、日本型AWの理解を深める活動をする、認定制度からヘルスチェックを切り離した新認定制度の模索など、視点を変えた取り組みを構築していく必要があります。

「日本の養豚はどこに向かう」のか、その答えは皆さんと一緒に何年もかかって見つけることにしたいと思います。魅力のある養豚を目指して頑張っていきたいと思います。

協会の益々の発展と皆様方の益々のご繁栄を祈念し、提言に代えます。

SPF豚セミナーを 1月26日に開催します オンライン参加と併用、 最優秀農場表彰式も会場で

前号でお知らせした令和4年度のSPF豚セミナーですが、1月26日(木)、東京都千代田区のKKRホテル東京にて開催することとなりました。開催要項は次ページの通りです。

感染症対策の観点から、前年度同様会場人数を制限し、オンラインによる参加とのハイブリッド方式といたしました。会場定員50名、オンライン参加90名限定です。参加費は無料です。恒例の終了後の懇親会は今回も見送ることとしました。

前年度は会場参加を講師他関係者のみとしましたが、今回は広い会場を準備したうえで感染対策を徹底しながら50名に限りご参加いただくこととしました。

また、2年続きで現地開催となった最優秀CM農場表彰式はセミナー会場で行うこととしました。3年ぶりとなります。昨年11月10日、選考委員会を開催、総合生産成績部門及び商品化頭数の最優秀農場が決定いたしました。選考委員長である濱岡隆文認定委員長に講評と合わせてご報告いただきます。

セミナーの講演は2題あります。まず「SPF豚の理念とヘルスチェックの重要性」と題し、矢原芳博氏にご講演いただきます。矢原さんは日清丸紅飼料(株) 研究所において長年養豚の臨床検査に携わってこられたヘルスチェックの専門家です。現在は鹿児島関連会社の社長をお務めのかたわら、古巣の研究所で後進の育成にも取り組んでおられます。

講演では養豚場から排除できる疾病は排除する事で生産性向上を目指すSPF豚の理念は正しい方向性であること、排除すべき疾病も時代とともに変化し、その状況をモニタリングするためにも診断技術も進化すべきであるという観点から、最近の検査結果の気になる点などについて解析いただきます。

続いて、JA北九州ファーム(株)の稗田直輝さんにご講演いただきます。同社はその名の通り、大分・熊本・福岡の北部九州で養豚・肉牛事業を展開しており、4つの養豚農場のうち2農場が協会認定農場です(GP1農場、CM1農場)。

同社では業界でもいち早くアニマルウェルフェアに取り組み、海外の技術を取り入れた母豚のフリーストール管理を導入されました。先駆者として導入当初は大変な苦勞をされましたが、今では大手加工品メーカーが視察に訪れるほどの成果を上げています。「養豚場におけるアニマルウェルフェアの取り組み事例と課題」をテーマにご講演いただきます。

他に、セミナー恒例の「CM農場生産成績年次報告」も予定しております。開催要項をご参照ください。

なお、セミナーの様子は動画撮影し、後日協会ホームページにて公開する予定です。

急なご案内となり恐れ入りますが、人数も限定しておりますので、開催要項を参照の上お早めにお申し込み下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。

令和4年度SPF豚セミナー開催要項

開催日時：令和5年1月26日（木）13：00～16：00

場 所：KKR HOTEL TOKYO（東京都千代田区大手町1-4-1）
11階「丹頂の間」
<https://www.kkr-hotel-tokyo.gr.jp/>

オンライン参加も可能

<プログラム>

開会のあいさつ.....	13：00～13：05
1) CM認定農場生産成績年次報告(2021).....	13：05～13：25
藤田世秀・日本SPF豚協会専務理事	
2) 生産成績優秀CM農場表彰.....	13：25～13：50
選考結果報告・講評	
表彰	
総合生産成績部門最優秀農場	
商品化頭数部門最優秀農場	
3) 講演「SPF豚の理念とヘルスチェックの重要性」.....	13：50～14：50
講師：(有)輝北ファーム・矢原 芳博氏	
休 憩.....	14：50～15：00
4) 講演「養豚場におけるアニマルウエルフェアの取組み事例と課題」.....	15：00～16：00
講師：(株)JA北九州ファーム・稗田 直輝氏	
閉会のあいさつ	

<お申し込みについて>

会場参加50名、リモート参加90名限定 定員になり次第締め切らせていただきます。

- ① 所属・お名前
- ② メールアドレスまたは連絡先
- ③ 実参加・リモート参加のいずれか

を明記の上、下記のアドレスまでメールでお申し込みいただくか、FAXをお送り下さい。

j.spf.a@nifty.com

FAX.03-5835-5376 TEL.070-4108-3825

折り返し事務局よりご連絡差し上げます。

リモート参加の方には、前日にお申し込みのアドレス宛に参加URLをお知らせいたします。

アドレス等お間違えのないようご注意の上お申し込みください。

2013年10月に7年ぶりに38道県の817戸に発生した豚流行性下痢(PED)は、2022年3月まで続発し、4月以降8月まで正式な報告はありませんが、終息していない届出伝染病です。(図1)

筆者は2016年度に分与を受けたPEDウイルス(PEDv)に対する各種消毒剤による不活化実験をし、養豚3研究会で発表しました。ワクチン発売のほか、農場では飼養衛生管理基準対応や動線管理の対策もしていますが、十分とは言えません。今回バイオセキュリティの要の一つである消毒効果についてまとめてみます。

この実験に供試した消毒剤と濃度は表1のとおりです。実験条件は常温(20℃)と氷温(0.5℃)、有機物(FCS:牛胎児血清)濃度0、20、40%の各区を設定しました。供試薬剤をFCS5%添加培養液中の $10^{7.25}$ /mlのウイルスに1:1で添加混合し、10分間反応させてウイルス感受性細胞の生存性をみました。有効の判定はウイルス力価を最低でも2 log (桁)、有意に有効と判定するには4 log (桁)以上下げることです。結果は表2のとおりで、常温では有機物が40%でも4桁下げる能力があるグルタ製剤は氷温では大きく効果を減じました。塩素製剤2剤は氷温で有機物が多くなるに従い効果を減じますが40%でも有効で、2剤の差は有効塩素濃度の差です。注目は逆性石けん液で、有機物が少なければ常温でも低温でも有意に有効なことです。過酢酸製剤2剤は条件に関わらず有意に有効でした。なお、消石灰溶液は本実験の方法では無効でした。その理由は表2に記しましたがウイルス溶液に消石灰溶液を添加した瞬間にpHが大きく低下したため、強アルカリによる不活化効果がなくなったためと考えられます。

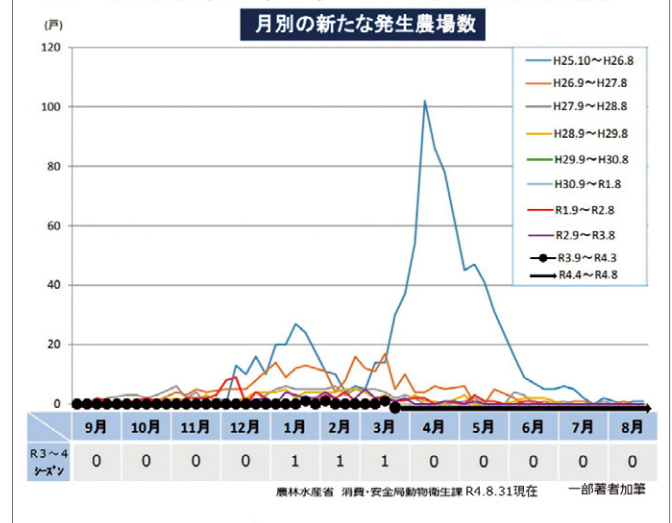
PEDが図でみるように寒冷期に発生が比較的多い状況は、一つの見方としては、使用する消毒剤によっては寒冷時に効

果が低く、下痢便に含まれるPEDvを十分に不活化できないためともいえます。なお、PRRSv、CSFv、ASFvなどもPEDvと同じエンベロープがあるウイルスなので不活化効果も同等とされています。

私は農場では最低4種類の消毒剤を用意して使い分けのことを提唱しています。コスト、使用場所、使用時期、防疫の重要度に応じて、防散消石灰、逆性石けん液、複合塩素剤、過酢酸製剤です。

ご検討いただければ幸いです。

図1 豚流行性下痢 (PED) のシーズン毎の発生農場の推移



薬剤種別	実験濃度 (倍)	使用濃度範囲	備考
A グルタルアルデヒド製剤	: 160	160~ 800	グルタプラス
B "	: 200	200~1000	ヘルミン25
C 複合塩素製剤	: 500 (200ppm)	500~2000	ピルコンS
D 塩素製剤 (有効塩素0.6g/g)	: 300 (2000ppm)	300~3000	クレンテ
E 逆性石けん液 (主成分10%)	: 500	500~2000	アストップ
F 過酢酸製剤 (過酢酸濃度5%)	: 200 (250ppm)	くん蒸×10、(200)	ハイベロックス
G " (" 約5.7%)	: 220 (")	くん蒸×11、220	アバサイドS
H 防散消石灰 (純度約70%)	: 500	-	農工用
I 水酸化カルシウム剤 (純度97%)	: 500	-	Eco Shell H.
J 二酸化塩素製剤	: 1750 (35ppm)	-	セルトール
K ヨード系薬剤	: 500	500~1000	バイオシッド30
L 次亜塩素酸Caほか含有製剤	: 1000	1000~10000	オキシリンク

表2 実験結果

作用温度	FBS濃度 (%)	薬 剤												
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	
常温	0	+++	+++	++	+++	+++	+++	+++	++	++	-*	-*	-	-
	20	+++	+++	++	+++	++	+++	+++	++	++	-*	-*	-	-
	40	+++	+++	+	+++	-	+++	+++	-*	-*	-	-	-	-
氷温	0	+	-	++	+++	+++	+++	+++	-*	-*	-	-	-	-
	20	+	-	++	++	++	+++	+++	-*	-*	-	-	-	-
	40	-	-	+	+	-	+++	+++	-*	-*	-	-	-	-

PEDウイルスの力価: $10^{7.25}$ TCID₅₀/ml FBS: 有機物(牛胎児血清)
 +++: 感染価が4.0 log₁₀以上低下 ++: 同 3.0 log₁₀以上低下
 +: 同 2.0 log₁₀以上低下 -: 同 2.0 log₁₀未満
 -*: 実験濃度の消毒溶液とウイルスを含む溶液とを1:1で混合した結果。混合溶液のpHはH≦7.9、I≦8.4
 畜産の研究 71-8 2017, 日本養豚開業獣医師会報28 2018-5 三宅眞佐男

第12回

農場バイオセキュリティ強化のための最新情報



PED ウイルスに対する消毒剤の不活化効果

アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング(株)

三宅眞佐男

TOPICS

オルサスミストによる 除菌について

全農畜産サービス(株)
資材事業部
栗田直美

SPF豚の飼養管理では、CSFを始めとした有害なウイルス・細菌などの微生物を殺す＝除菌・消毒は基本中の基本です。しかし、養豚場の内外には有機物が多く存在し、それらの有機物により消毒薬の効果が減弱して、農場ストックマンの努力が水泡に来していると思われるケースが多々見受けられます。

このような農場の除菌・消毒作業を無駄にしないために、全農グループでは過酢酸製剤という強力な除菌剤をお薦めしております。過酢酸製剤は各種微生物に対して優れた除菌効果を有し、なおかつ毒性が低く、安全性が高い除菌剤です。また、製剤の成分が揮発性のため残留性がなく、0℃付近の低温下や汚れがあるところでも効果を発揮することも利点です。

原液は強酸性(pH1~1.5)であるため、常用の使用濃度250~500ppmに希釈してもpH3.3~3.5と酸性です。そのため、除菌効果は高いものの、鉄・銅・真鍮などを多く使用する噴霧器は、長期間の使用で部品が腐蝕してしまうことが懸念されます。

そこで、当社では過酢酸製剤が触れる部品すべてをステンレスもしくはプラスチックなどを使った、過酢酸製剤対応の機器(オルサスシリーズ)を開発し、販売しております。今回は、オルサスシリーズの中から、自動噴霧器「オルサスミスト」をご紹介します。

【オルサスミストの特徴】

- 酸性の過酢酸製剤に対応：各部品はステンレスもしくはプラスチックで、腐蝕しない作り
- 室内除菌に対応：1台で概ね30㎡まで除菌
- 簡単ワンプッシュスタート：ボタン1つの簡単操作で噴霧に手間がかからない
- 人手がいらぬ：タイマーセットで一定時間噴霧し自動停止、除菌作業の人手を削減

【オルサスミストの使用例】

- 本社(新型コロナ対策として使用)
 - ・執務室に入る前に衣服やバック等に300倍希釈した過酢酸製剤のミストをかけて除菌
- 農場(CSF対策、新型コロナ対策として使用)
 - ・過酢酸製剤で通勤用の靴を踏み込み消毒(「除菌マット」使用)した後、農場用長靴への履き替え室にオルサスミストを設置。300倍希釈した過酢酸製剤のミストで衣服を除菌

過酢酸製剤の特徴である「除菌効果が高く、乾燥後は成分が残留しない」ことが、オルサスミストによる衣服の除菌を可能にしております。この自動噴霧器「オルサスミスト」と過酢酸製剤の日常使用により、SPF豚農場がより防疫レベルを向上させ、生産性向上が図られることを祈念しております。

<問い合わせ先>

全農畜産サービス株式会社 資材事業部
〒135-0041 東京都江東区冬木11-17
TEL:03-5245-4871 FAX:03-5245-2424
<お問い合わせはこちらから>



ALSUS MIST (オルサス ミスト)

【本体】



オルサスミスト

【付属品】



噴霧ユニット
リモコン

【仕様】

電源	100V 50-60Hz 共用
噴霧量	High: 約 6000ml/h
	Middle: 約 3000ml/h
	Low: 約 1000ml/h
噴霧時間	タイマー設定可
タンク容量	18L
消費電力	260W
運転音	54dB
外形寸法	幅 500mm × 奥行 360mm × 高さ 1060mm
質量	10kg (液剤を含まない)



オルサスミストの
本社事務所での噴霧風景
※写真で使用している6口の噴霧ユニットは別注となります



踏み込み消毒風景
(除菌マット)

協会からのお知らせ

●薬剤耐性（AMR）対策に取り組みましょう

薬剤耐性菌による感染症の世界的な増加が懸念される中、我が国では、2016年4月に「薬剤耐性対策アクションプラン」を策定し、その中で毎年11月を「薬剤耐性対策推進月間」に設定しており、薬剤耐性に関する知識や理解を深める運動を展開、人と動物などの関連分野が連携して対策を推進しています。推進月間を中心に薬剤耐性に関する知識や理解を深めるための国民的な運動を展開してきました。

農林水産省では、薬剤耐性対策推進月間に合わせ、同省北別館「消費者の部屋」において昨年11月14日から18日まで「動物用医薬品ってなに？」という展示を行い、薬剤耐性対策について紹介したほか、公式ツイッターを利用して情報発信しています。また、内閣官房でもポスターを作成し啓発活動を行いました。

協会だより前号（89号）に掲載した浅井鉄夫先生の提言にもある通り、薬剤耐性菌対策は世界中のあらゆる分野で重要な課題となっています。抗菌剤の適切な使用方法と使用量の低減を心がけましょう！



【11月は薬剤耐性（AMR）対策推進月間】

薬剤耐性菌とは、お薬が効かない細菌のこと。

農林水産省のTwitterでは、動物分野での対策について発信しています。

薬剤耐性菌を増やさない対策方法を動画でチェック！

<https://www.youtube.com/watch?v=14MArck5Yc>

#薬剤耐性について考えよう 2022

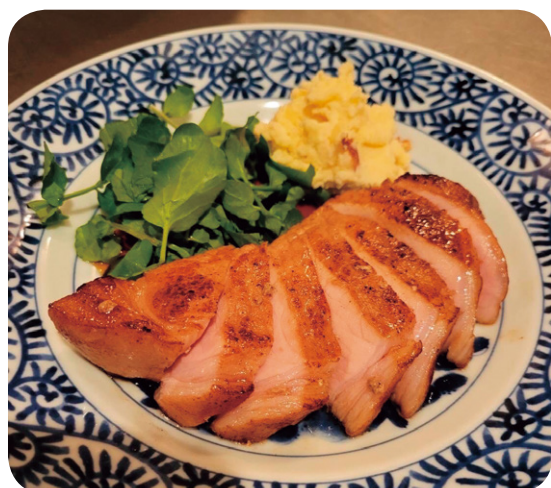
●日本SPF豚研究会が開催されました

日本SPF豚研究会では昨年12月1日、東京千代田区の「KKRホテル東京」において2022年度の定期総会及び第30回研究会を開催しました。3年ぶりの開催で、事前申し込みによる会場参加とオンライン参加によるハイブリッド方式としました。

研究会では協会の藤田世秀専務理事が2021年度協会年次報告を発表したほか、2題の講演が行われました。



プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



SPFチャーシューのステーキ

●レシピ提供・生姜屋黒兵衛（東京都武蔵野市）

内田 善宜

今回は、炊飯器を使った手軽な低温調理を教えてくださいました。じっくり熱を加えることでSPFポークの素材の良さも活かせる上に放っておけるのもありがたいですね。気軽にトライできそうです。ぜひお試しください。

●材料●（2人前）

SPF 豚ロース切り身 150g × 2枚
 <たれ>
 料理酒 20cc
 みりん 20cc
 濃口しょうゆ 50cc
 ザラメ 18g
 上白糖 6g
 水 50cc
 にんにく 5g
 生姜 10g
 青ネギ 10g
 付け合わせ 葉野菜やポテトサラダなどお好みで

●つくり方●

- ① 炊飯器にお湯を入れて保温ボタンを押し温めておきます。
- ② たれの材料を鍋に入れて沸かし、火を止めて粗熱をとります。
- ③ ジブロックなどのファスナー付きプラスチック袋に豚ロースとたれを入れできるだけ空気を抜きます。
- ④ 温めた炊飯器に③を入れ、ポークステーキの厚さが1cm程度で25分、そのまま保温します。
- ⑤ 炊飯器から袋を取り出し、肉を取り出してフライパンで焼き目をつけ皿に盛ります。たれを煮詰めて肉にかけます。
- ⑥ 付け合わせを添えて出来上がりです。

★内田シェフからのアドバイス

炊飯器から取り出した後、一晩寝かすと味がしっかり入ります。焼くときは焦げやすいので注意してください。

認定情報

●2022年12月認定農場

（有効期間：2022年12月8日から23年12月末日まで）

北海道・ホクレン滝川・スワインステーション、全農飼料畜産中央研究所上土幌種豚育種研究室、(有)道南アグリ、富良野スワインファーム(有)、(有)サクセス森、**青森県**・(有)ふなばやし農産繁殖農場、同子豚農場、同肥育農場、同第3農場、**岩手県**・(有)ケイアイファーム玉山農場、(株)さいとうふぁーむ繁殖農場、同肥育農場、(有)胆沢養豚、カワムラSPFファーム、北日本JA畜産(株)本社農場、**秋田県**・(有)ポークランド、**山形県**・(有)最上川ファーム、**宮城県**・(株)しまぎ牧場蔵王高原農場、**茨城県**・(有)常陸牧場、ピッグファームゴカン、**千葉県**・(株)ツ

※次回認定委員会は2023年3月9日(木)の予定

ナシマ、(株)愛東ファーム銚子農場、同東庄農場、高森養豚、小長谷養豚、(有)菅井物産SPF農場、(株)下山農場岩井農場、同倉橋農場、(株)ユウアイ森戸農場、**岡山県**・岡山JA畜産(株)吉備農場、同田淵農場、**広島県**・(株)広島ポーク、**愛媛県**・太平洋ブリーディング(株)大川農場、同丹原農場、**大分県**・JA北九州ファーム(株)直入農場、同安岐農場、**長崎県**・大西海ファーム、(有)芳寿牧場口之津牧場、同国見牧場、同島原農場、同新島原農場、同新国見農場、(有)ワールドファーム有明農場、同瑞穂農場、**宮崎県**・ジャパンミート(株)夏尾農場、(有)ナガトモ、**鹿児島県**・(有)エクセルファーム湧水農場（以上47農場）

※9月の認定委員会において3か月間の認定期間延長が認められ、今回認定された農場

（有効期間：2022年12月2日から2023年9月末日まで）

千葉県・茨城県・オヌマファーム、**宮崎県**・(株)ナンチクファーム守山北郷農場、同中川農場

（以上3農場）



JA 北九州ファーム
稗田 直輝さん
(福岡県福岡市)



JA 北九州ファーム本社の皆さん(前列右から2人目が稗田社長)

豚ひとすじ、農場立ち上げと子育てを両立させた苦勞人社員が誇りを持てる会社を目指して

今号の「SPFのひと」は1月26日のSPF豚セミナーの講演をお願いしたJA北九州ファーム(株)稗田直輝社長(64歳)です。

JA北九州ファームは大分県の直入農場(GP農場)、安岐農場(CM農場)と2農場の認定農場のほかに、福岡県、熊本県に農場があり、北部九州を中心に肉牛事業も併せて展開している全農グループの畜産会社です。

社長の稗田さんは佐賀県武雄の出身。大学では家畜育種が専門で学生時代は馬術部と「豚は全くの専門外」だったそうです。鹿児島県大学院2年のとき、鹿児島県庁の採用試験の発表待ちの間に、「なんとなく」全農福岡支所(当時)で行われていた就職説明会に向かい、その日にいきなり2回の面接、翌日筆記試験、さらに東京大手町の全農本所へと、とんとん拍子に採用が決定。県庁にも合格したそうですが、研究室の指導教授に「後輩の就職に影響する」といわれ、そのまま全農へ。

配属されたのは当時茨城県岩間町(現笠間市)にあった東日本原種豚場。当時の岩間町は寂しい田舎町、一人降り立った駅からタクシーで向かった勤務先の農場は老朽化し、独身寮は「風呂に青大将がいたり、廊下にガマガエルがいたりでびっくりしました。あつという間に慣れましたが(笑)」。その後岩手県雫石町に移転した東日本原種豚場の立ち上げに携わりました。「SPF豚は主にプライマリーの担当でしたね」。

その後は福岡支所、西日本原種豚場、四国くみあい飼料、福岡事業所等を経て、現在の会社の前身である北九州ジェイエイ畜産で母豚800頭規模の、当時はまだ先駆けだったアニマルウェルフェアを考慮した母豚管理システムの新規大型農場立ち上げの責任者となりました。セミナーの講演で詳しくお話いただけたと思います。

結婚したのは茨城時代。知り合いの紹介で出会った2歳年下のふみ子さんは早稲田大学卒のシステムエンジニアでした。東京は全く不慣れな

上に初対面の場合が銀座の超有名フランス料理店とあって「緊張して何を食べたかわからないくらいでした」。一目ぼれでしたか? 「そうですね」。結婚後は盛岡駅前の新居から稗田さんは雫石へ、ふみ子さんは東京まで新幹線通勤した時期も。長男誕生のタイミングで福岡転勤となり九州へ戻りました。

前述の農場立ち上げの大変な時期に稗田さんに大きな不幸が襲いかかります。ふみ子さんが突然の病に倒れ、47歳の若さで帰らぬ人。当時息子さんは高校に入学したばかり、下の娘さんは中学生でした。それまで家事はすべて奥さん任せだった稗田さんのワンオペ奮闘が始まります。家事をすべてこなし、娘さんのお弁当作りも4年間続けたそうです。仕事で遅くなりそうなときは一旦帰って夕飯の支度をし、会社に戻ったことも。「大変でしたね。あまり記憶がないくらいです。よく持ったと思います」。相当なご苦勞だったのではないかと想像されます。お子さん二人も無事社会人になり独立、「今はのんきな一人暮らしですよ(笑)」。趣味らしい趣味はないとのことですが、以前は蝶の採集で県外まで行ったり、つい最近まではあの「ポケモンゴロ」に夢中になり一日10万歩歩いたこともあったそうです。

ひよんな出会いから豚一筋、現場一筋の人生、「もし県庁に勤めてたとしても同じようなことをしていたかもしれませんね」と稗田さん。現在は1,000頭規模の新設養豚場の、令和6年の稼働を目指しトップとして奮闘する毎日です。

従業員90名を率いる社長として「社員が大変なことにならないようにしておきたい。豚は波があってもずっと悪いままではなかった。みんなが誇りをもって働いてくれる環境づくりを実現したいですね」。取り巻く環境は易しくはありませんが、きっと前に進んでいけるのではないかと感じさせるお話でした。(編集部)

編集後記

あけましておめでとうございます。プーチンの戦争は10か月を超えました。この混迷はいつ収束するのでしょうか。次元は違いますが、わが国の豚熱もいつ収束するのか。決め手が見つからないことに、焦燥感を感じるのは私だけでしょうか。また、鳥インフルエンザも猛威を振っています。さらに、飼料原料高、資源高、エネルギー急騰、調達コストの上昇等難題が周囲にうず高く積み上げられ、畜産界の環境は厳しさを増しています。養豚界のAW、防疫の基本、消毒も見直しが必要です。出来るところからひとつずつ取り掛かるしかないでしょうね(世)。



日本SPF豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会の
登録商標です

日本SPF豚協会だより

第90号 2023年1月1日発行(季刊)
発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376
e-mail:j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人 北島 克好
編集人 藤田 世秀